

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100213		
法人名	株式会社ベストケア		
事業所名	青森第1グループホーム1F		
所在地	青森県青森市青柳1丁目16番5-1号		
自己評価作成日	平成25年12月10日	評価結果市町村受理日	平成26年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成26年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当グループホームの入居者様が、病状の重度化や加齢により衰弱し、人生の終末期の状態になっても、ご本人が望む場所でご本人が望む生活を維持し、最後まで暮らしていくことができるように、医療機関及びご家族と協力して対応している。</p> <p>陸奥湾を一望できる位置にあり、青森の祭り等を感じ取れる環境である。(花火大会等)</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成24年に開設したホームの運営母体である医療機関は、長年在宅医療に携わり、寝たきりや通院困難の方に訪問診療を行っている他、デイサービス、福祉用具貸与等、多様な事業を展開すると共に、職員の育成にも力を入れている。ホームでは認知症介護経験の豊富な管理者をはじめ、職員が一丸となり、利用者一人ひとりに合った支援が行われているかを振り返りながら、利用者、家族、職員の意見や要望を尊重して、更に質の高いサービス提供を目指し、積極的に取り組んでいる。</p> <p>また、利用者が終末期になっても、最後までその人らしく暮らすことができるよう、家族と協力しながら看取りの対応を行っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼすべての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念を共有し、毎日の生活の中に反映させていけるよう、声かけをし、振り返りをしながら実践につなげている。	開設時に作成した理念を、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念に作り変え、ホーム内に掲示している他、職員のネームプレートに理念を掲載したものを携帯し、共有化を図っている。また、職員は日々の申し送りや全体会議時に、理念がケアに反映されているかの確認や振り返りを行っており、出勤した職員は申し送り前に利用者一人ひとりを訪室し、笑顔で挨拶を行うことを日課とする等、心をこめたサービス提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板、ホームの新聞、ブログ等を通して、日常的に地域との交流を図っている。	町内会に加入し、ホーム便りを回覧板に折り込み、ホームの現状や行事予定をお知らせしている他、ブログでもホームの出来事を紹介する等、ホームを理解していただけるよう、積極的に働きかけている。また、地域活動にも参加している他、多くの住民の参加を得て介護相談や勉強会も開催し、積極的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各行事等を通して、地域住民と交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して、地域交流の報告や勉強会を行い、サービス向上に活かせるよう実践している。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、事前の呼びかけにより、町会長、地域包括支援センター職員、家族、地域住民等のメンバーの参加を得ている。会議では、利用者やホームの取り組み状況等を報告している他、メンバーからは地域の情報等を提供していただき、「地域住民と福祉についての勉強会を開いてはどうか」、「広報誌の文字を大きくしたらどうか」等、活発な意見が出され、地域の理解と支援を得るための会議として、有効に活用されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自己評価・外部評価の結果について報告していく他、運営推進会議の報告等もしている、必要に応じて、職員が市役所に出向き、相談・連携を図っている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が毎回参加しており、ホームの取り組みを伝えている。広報誌や書類等は手渡しや郵送等で提出し、事故報告書の挙げ方や書き方、諸手続きについても相談して実践につなげ、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、ミーティングにて身体拘束についての研修や勉強会を実施し、予防対策について実践している。	契約書に身体不拘束について明記している他、生命に関わる場合等、やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、家族の承諾書等の必要書類や、体制を整えている。職員は全体会議やミーティング等の機会を利用し、マニュアルを基に、身体拘束につながる行為を話し合い、言葉の拘束にも注意しながら、日々のケアに取り組んでいる。また、目標達成計画でも取り上げて、身体拘束に関する理解を深めるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止について勉強会、研修会を通して防止を心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部研修を計画し、研修に参加して理解を深めるための取り組みを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一つ一つの説明に対して、納得していただけるように、丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのコミュニケーションが図りやすい環境を整え、事業所内に苦情受付窓口、意見投函箱を設置し、家族が意見の申し出をしやすくしている。	家族の面会時や状況報告の電話時に、「歩行等、離床時間を増やしてほしい」、「一緒に何かやってほしい」等、直接、要望が出していただいている。また、運営推進会議に家族が参加している他、ホーム内・外の苦情受付窓口等を明示して、外部に意見を出せる機会を設けている。利用者とは、1対1になった時等に普段聞けない事を表出していただき、職員はケア記録に記載して、情報を共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングや全体ミーティングを通して意見・提案を求め、より良い環境づくりができるよう心がけている。	管理者は現場をよく知る職員の声を大切に思い、個人面談を実施する等して意見を聞き、職員と一緒にホームの業務改善を目指して取り組んでいる。また、2ユニット合同で行事を開催する等、普段から利用者と職員が馴染みの関係を築けるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体ミーティングを通して意見・提案を求め、より良い環境づくりができるよう心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等には全職員が参加できるような体制づくりを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事参加、見学、研修等を通して意見交換を行い、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何度か事前訪問し、本人の意向を聞き取り、安心して暮らせるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問して家族とよく話し合い、情報を提供していただき、一番望んでいる事を提示できるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の聞き取りによる適切な状況判断により、必要な支援サービスが受けられるよう、関係機関との連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を人生の先輩、ご家族の一員として、相互の信頼関係を結べるよう努力し、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密にし、入居者様の情報提供を通して、意見等の交換ができる環境、何でも言い合える関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の要望を基に、馴染みの人や場所等、足を運んでもらえるよう声がけて、ご家族の協力の下、支援に努めている。	入居時のアセスメントや日々の会話を通じて、利用者の思いや意向の把握に努めており、家族の協力も得ながら、行きつけの美容院や墓参り、法事、外泊、外食等に出かけている。また、電話をかけたい方の取り次ぎ等も支援し、これまでの生活の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりを理解するように努め、その人に合ったコミュニケーションを図り、その人らしい環境、雰囲気づくりを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も電話連絡や相談に対応できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様とのコミュニケーションを密にし、思いや希望等の把握をできるように対応している。	アセスメントや日常的な関わり、会話等から、利用者個々の思いを引き出し、把握した情報を記録して、共有している。また、1対1の個別支援時も本人の思いや意向を聞く機会と捉え、支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、関係機関からの情報を基に、入居様と対話しながら確認し、全職員にプライバシー保護の周知徹底を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい行動を全職員が把握し、心身の状態観察をしながら、変化に応じて適切な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人がより良く生活していけるように、コミュニケーションで知り得た小さな情報等を活かして、ケアプランに反映させている。	日頃から、利用者に声がけして思いを聞き取り、家族の意見や希望も聞き出している他、職員の気づきも参考にして、個別の介護計画作成に取り組んでいる。また、常に利用者の現状に即した介護計画となるよう、日頃から心身状況や生活の様子等を観察し、必要に応じて、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その人のケアプランや個別プログラムに合わせて、その人の状態が見てすぐにわかり、ご家族様が見てもすぐわかるような様式になっており、計画書等の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制をとり、入居者様が安心して暮らせるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や町会と、行事等を通して交流を図り、資源活用を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族が希望する往診や医療機関の受診等ができるようにしている。	かかりつけ医や協力医等、希望する医療機関への受診を支援しており、送迎は他科受診を含めて家族が行い、都合が悪い時は職員が同行している。ホームによる受診支援時には、状況を家族に説明している他、家族からの受診後の報告についても、漏れの無いよう詳細に記録し、共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックを基に状態観察し、医療機関との連携体制を密にして、全職員が変化があった時に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者やそのご家族、関係者と、定期的 に、または状態に応じて随時話し合いを行 い、早期退院に向けて関係者との情報交換 を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早 い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業 所でできることを十分に説明しながら方針を共有 し、地域の関係者と共にチームで支援に取組ん でいる	入居者様やご家族の意向を踏まえた上で、 医療機関や家族との連携図りながら、支援 していく体制をとっている。	母体の医療機関の協力の下、看取りまで支援を 行う方針を明確にしており、これまでも看取りの 実例がある。利用者の状況の変化に応じて、担 当医からその都度家族に説明があり、24時間体 制で看護師と連携している他、重症化や終末期 の対応について、マニュアルの作成や勉強会を 行う等、職員の不安軽減に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	全職員でミーティング時に各マニュアルを確 認し、防災訓練を行いながら、急変時や事 故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	町会長や地域住民、運営推進メンバーと年 2回、日中・夜間を想定した避難訓練を実 施している。	災害時のマニュアルを整備し、運営推進会議のメ ンバーや家族、近隣住民等と一緒に、消防署員 の指導の下で、年2回、避難訓練を行っており、 避難すべり台を使用した訓練の様子をホーム使 りにも掲載している。避難完了の目標時間を設定 し、いかに迅速に安全に避難できるかを検討して いる他、防火設備は定期的に業者が点検してい る。	災害発生時に備え、3日分程度の食料や 飲料水、寒さをしのげる物品等を用意す ることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシー を損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮し ながら日々の振り返りを実施し、対応してい る。	マニュアルを整備しており、会議やミーティング時 に、利用者に不適切な言葉遣いをしていないか、 人格を尊重した対応でケアが行われているかを 振り返っている他、利用者への些細な声がけに 関しても、気になることがあれば、管理者が個別 に注意をしている。また、利用者の顔写真の掲載 や個人情報に関する書類等の置き場所等、適切 に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを聞きながら、発言や意 思表示ができる環境づくりを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりがその人らしく、自由に過ごせる時間帯等を考慮し、快適な生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員やご家族と買い物に出かけている他、馴染みの美容院に定期的にかットをお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に合った食事を提供し、また、行事食等も取り入れ、楽しみを持って生活してもらうよう努めている。	食事は専門業者を利用し、献立、カロリー計算等、栄養のバランスがとれたものを提供している他、検食当番が嗜好調査を行い、ソフト食や刻み食等、利用者一人ひとりに合った食事形態にも考慮している。また、利用者が楽しく食事できるよう、利用者と一緒に盛り付けや後片付け等を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給の時間を多く持ち、全職員で把握できるように声がけ、促しができるように心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、入床時、毎食後、声がけや見守りを行い、口腔ケアを実践している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時での声がけ、誘導等の排泄支援を徹底しており、排泄後の清潔保持の支援、確認を行っている。	排泄チェックシートを活用し、利用者一人ひとりの排泄リズムを把握しており、排泄サインや羞恥心に配慮しながら、早めの声がけによるトイレ誘導を行っている。母体施設の福祉用具貸与事業により、利用者の排泄状況に合わせた介護用品を検討し、排泄の自立に向けて、段階的に改善できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人に合ったリハビリや軽体操の実践をしている。また、水分補給の徹底、排泄のリズム確認、排泄を促す適切な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりに合わせた入浴を提供している。希望があれば、いつでも入浴可能である。	利用者の身体状況や入浴習慣を把握し、一人ひとりの希望に応じた入浴支援に努めており、個別支援や希望に応じた同性介助により、プライバシーが守られている。また、脱衣室も床暖やファンヒーターで暖かく、「寒いから面倒」ということなく、安心・安全に入浴できるよう支援している。職員は利用者と1対1となる入浴の機会を利用し、利用者の思いや意向を聞き出して、ケアプランに活かしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の体力を考慮し、適度な運動後に休息をとるよう支援し、不眠時等には対話や一緒に行動する等して、入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員に服薬の確認と把握をしてもらいながら、入居者様に提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴や力量を把握し、軽体操、リハビリ、アクティビティーへの参加を促し、それぞれに楽しみを持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等の日常的な外出の機会を設け、ドライブ等を行っている。その日の身体状況に応じて、その日に合った支援を行っている。	利用者の希望を取り入れ、花見等の季節のイベントやドライブに出かけている他、日常的にも個別の散歩や買い物等に出かけ、気分転換を図っている。また、家族の協力を得て、本人の希望する外出や外泊にも対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週1回の割合で、移動のパン屋さんやヤクルト等、その人の好みに合わせた物を購入していただけるよう、促している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、ご家族様への電話等の対応がすぐにできる環境となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング等に、季節を感じる手作りの作品を飾っている。また、湿度・温度を確認し、居心地の良い温度調整を心がけている。	海に面したガラス張りの広い室内は、採光に優れ、また、利用者が海を眺めながら、ゆっくりと食事やお茶ができる癒しの場となっている。職員の作業音やテレビの音等も騒がしくなく、随所に温・湿度計を設置し、クーラーや加湿器の使用等により、快適な空間を保っている。また、利用者の作品が展示され、季節感を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中で、一人で過ごせる空間を作ったり、テーブル等の配置換えをして、会話をしやすいよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の馴染みのある家具等を持ち込んでもらい、生活できるように取り組んでいる。	利用者の高齢化や重度化に配慮し、転倒やケガが無いように、その方に合ったベッドの高さを調整したり、物品の置き場所を工夫している。これまで愛用していた椅子やテーブル等が持ち込まれている他、家族の写真や自作の作品を飾り、居心地良く過ごせる配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に大きな居室番号があり、ドアノブに名札等をつけ、声がけや見守りを行い、安心して生活ができるように心がけている。		